

再生増殖制御学セミナー

膜・分泌蛋白質の 翻訳後修飾の制御とその役割

講師：後藤 聡 先生

慶応義塾大学医学部生理学教室 特別研究講師

日時：平成 22 年 8 月 19 日（木） 16:00 -

場所：再生医科学研究所 東館 5F ルーフテラス

< abstract >

多細胞生物において、細胞間のコミュニケーションは、発生・分化、個体の恒常性、神経活動や免疫応答、さらには老化や再生など、あらゆる側面で重要かつ不可欠である。そのような細胞間コミュニケーションの多くは、細胞膜に提示、または細胞外に分泌される蛋白質やそれに付加された糖鎖などが担っている。したがって、そのような膜蛋白質や分泌蛋白質、さらには糖鎖が、どのように制御されているかを解明することは、複雑な多細胞生物を理解する上で非常に重要である。私達は、これらの蛋白質の制御について、いくつかの側面からショウジョウバエなどを用い研究を進めている。まず、糖鎖修飾を制御する新たな機構として、細胞内には機能的に異なるゴルジ体が存在することを見出した。現在、その形成機構について解析を進め、mRNA による制御がある可能性を見出している。また、Wg/Wnt のような分泌型シグナル分子は、そのシグナル量によって異なる細胞運命を誘導することが知られている。私達は、そのレセプターである Fz について、その細胞膜上の量がユビキチン修飾によって制御されることを新たに見出した。本セミナーでは、私達が見出した、細胞間コミュニケーションを制御する新たな機構についてご紹介したい。

主 催：京都大学再生医科学研究所

再生増殖制御学分野（瀬原） Tel:751-3826

後 援：京都大学グローバル COE「生命原理の解明を基とする医学研究教育拠点」

